

道徳科学習指導案

- 1 日時 令和元年10月11日(金) 第2校時(9:50~10:35)
- 2 学年 第5学年 13名(男子3名, 女子10名 合計13名)
- 3 主題名 「ふるさとを愛する心」(内容項目C(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度)
- 4 ねらい 高野リンゴが特産物として有名になるまでの先人の苦勞を知った主人公の気持ちを考えることを通して, 昔から今まで苦難を乗り越えながらりんご栽培が受け継がれてきたことに気づき, 自分の住む地域を誇りに思い, 地域のためにできることを考えていこうとする道徳的実践意欲と態度を高める。
- 5 資料名 「高野リンゴとぼく」(地域教材を一部改作)

6 主題設定の理由

- 本主題は, 内容項C(17)「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし, 先人の努力を知り, 国や郷土を愛する心をもつこと。」を基に設定したものである。

自分が生まれ育った郷土は, その後の人生を送る上で心のよりどころになるなど大きな役割を果たすものである。また, 郷土は生きていく上での大きな精神的な支えとなるものでもある。郷土での様々な体験や地域の人々との交流など積極的で主体的な関わりを通して, 郷土を愛する心が育まれていく。郷土の伝統を継承するとは, 長い歴史を通じて培われてきた風俗, 習慣, 芸術などを大切に, それらを次代に引き継いでいくということである。郷土の伝統と文化を大切にする心は, 過去から現在に至るまでに育まれた郷土の伝統と文化に関心をもち, それらと現在の自分との関わりを理解する中から芽生えてくるものである。それは, 国や郷土を愛する心へとつながるものである。

高学年の段階では, 受け継がれている我が国の伝統や文化を, 更に発展させていこうとする態度を育てることが大切である。そのためには, 直接的に触れる機会を通してそのよさについて理解を深めることが求められる。このことを通して伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し, 努めていこうとする意欲と態度を育てることをねらいとして, 本主題を設定した。

- 本学級の児童は, 総合的な学習の時間に, 「高野りんご探検隊」の学習の中で, 高野町で盛なりんご栽培について体験的に活動することを通して, 地域産業のよさや課題を見付けたり, それに携わる人々と関わったりしている。前年度にも, 総合的な学習の時間に高野町で盛んな大根の栽培を通して, 地域のことを学習している。事前に行った意識調査の結果は次の通りである。(実施13名 7月19日)

質問項目	肯定的回答	否定的回答
① 高野が好きですか。	69% (9人)	31% (4人)
② 高野町が自慢できるものは何ですか。 (複数回答)	・りんご (10) ・自然が豊か (7) ・人がやさしい (2) ・野菜がおいしい ・食べる場所がある。 ・ガソリンスタンドがある。	・大根 (8) ・トマト (4) ・元気 ・スキー, 雪合戦 ・雪
③ りんごの栽培活動をしてみて, 気が付いたことは何ですか。	・りんごの育ち方や作業の仕方が分かった。 ・りんご作りには様々な工夫があること。 ・高いところでの作業や機械を使うことが毎日, 大変なこと。 ・収穫までずっと大変なこと。 ・農家の方は, おいしいりんごを食べてもらうため	

	<p>に、暑い中でも頑張っていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんごも大根もどちらも育てるには苦労がある。 ・天候に左右されること。 ・暑い。
--	---

このことから、りんごをはじめ高野町のよさをたくさん見付けていることが分かる。そこで、よさとなっているものは、高野の地域で大切に守られたり引き継がれたりしていることであると気付かせたい。そして、りんご栽培の活動を通して知った、苦労や大変さ、喜びについて考えさせ、今だけでなく、将来を含めて、十年後、二十年後の高野町のことや自分自身の生き方についても考えさせたい。

- 本教材は、両親がりんご農家として働いている姿を見ている「ぼく」が、おじいちゃんとのやり取りの中で、高野りんごが様々な苦難を乗り越えて今の名声を得たことを知り、そのことについて考え、立ち上がるという内容である。この内容は、児童たちが経験したりりんご栽培の活動経験と重なる部分もあるため、より身近に感じられる教材であり、次のように指導する。

導入では、「りんごの栽培活動」に関する事前アンケートの結果を提示し、学習の見通しをもたせる。

展開では、まず、おじいちゃんの話から、高野りんごが現在に至るまでには、様々な苦労があり、それを乗り越えるために努力や工夫をしてきたことに気付かせる。

中心発問では、そのことを知った「ぼく」が、どんな気持ちになったかを考えさせることで、「ぼく」を通して、これから自分たちがどういう気持ちで栽培活動をしていきたいかを考えさせる。視点を変える補助発問や多面的・多角的に考え方を考えさせる補助発問などを複数準備し、児童の反応に応じて投げかけることで、対話を通して児童の思考や認識を深めていく。また、ゲストティーチャーからの話を聞くことで、道徳科と総合的な学習の時間の関連をもたせ、自分達の活動の意味について考えられる機会にしたい。自分達が体験してきたことと考えたこと、特に過去から現在、未来へと思考が繋がっていくように補助発問を投げかけ、自分たちの役割について認識させたい。最後に、導入時のアンケートを振り返り、道徳的実践意欲を高めたい。

振り返りでは、学習を通して新たに気付いたことや友達の意見を聞いて気付いたことなどを書かせ学びを深めさせていく。

7 大会主題【ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～】との関連

地域との関わりを生かした体験活動から、高野のよさに気付き高野を愛する心が培われる。このことを生かして、本授業では、地域教材である「高野リンゴとぼく」を通して、体験的に学習している地域産業や地域との関わりについて考え、児童自身が、「今何ができるか」、「将来、どのように高野と関わっていくか」を考えさせることで、ふるさとの未来の担い手としての児童の育成を目指していく。

8 研究主題【主体的・対話的に学びを深める児童生徒の育成～道徳科における児童の思考を促す発問の工夫を通して～】との関連

中心発問	補助発問	
高野りんごにこめられた人々の思いを考えよう。	○ おじいちゃんの時代から、みんなの時代、そして十年後や二十年後になったとき、りんごの木にまつまっている思いってどんなものになっていくのだろうか。	【視点を変える】
	○ みんなが育てているりんごにはどんな思いがまつまっているのだろうか。	【多面的・多角的に考えさせる】

9 準備物

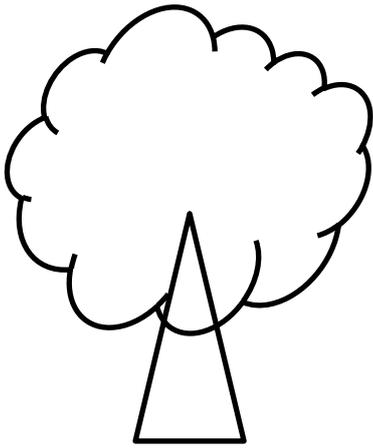
資料場面絵、ワークシート、活動時の写真

10 学習展開

	学習活動	主な発問と児童の心の動き (主な発問(○) 中心発問(◎) 予想される児童の反応(・))	指導上の留意事項と評価 (留意事項(◇)評価(・)(評価方法))
導入	1 りんごの栽培活動を想起し、本時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「りんごの栽培活動をしてみて、気が付いたこと」(事前アンケート)の結果を紹介します。 ○ 今日は、高野のりんごや高野町について、これからみんなには何ができるのか、どのように発信していきたいか考えていきましょう。 	◇ 事前アンケートの結果を提示し、課題意識や見通しをもたせる。
展開	<p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>① 両親の働いている姿を見ながら、「ぼく」は何を思っていたか考える。</p> <p>② おじいちゃんの話聞いて、「ぼく」が思ったことを考える。</p> <p>③ ゲストティーチャーの話聞き、高野りんごにこめられた人々の思いを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 両親の働いている姿を見ながら、ぼくは何を思っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんが来て、忙しそうだな。 ・県外からも来てくれているんだな。 ・将来はぼくが店を継がないといけなかな…。でも野球選手にもなりたいな。 ○ 高野りんごが売れるようになるまでには、どんな苦勞がありましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・売りに歩かないといけなかった。 ・売りに行っても安くしか買ってもらえなかった。 ・大雪のために枝が折れて、何年間かはりんごが取れなかった。(やめる人もいた。) ・新しい品種もチャレンジしてみた。 ○ おじいちゃんの話聞いて、「ぼく」はどんな思いになったでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・野球も大切だけど、りんごも担っていきいたい。 ・これからもりんごを守っていきいたいな。 ・ぼくももっと手伝いたいな。 ・もっと多くの人に買いにきてもらうにはどうしたらいいかな。 	<p>◇ 自分の将来について、りんご園を継ぐことと野球選手になる夢とで迷っていることに気付かせる。</p> <p style="text-align: right;">教材との対話</p> <p>◇ 栽培する苦勞を共感的に理解させるだけでなく、販売や雪害などの苦勞もあったことに気付かせる。</p> <p style="text-align: right;">教材との対話</p> <p>◇ 「ぼく」も将来の高野町の担い手の一人であることに気付かせる。</p> <p style="text-align: right;">教材との対話</p> <p>◇ 「道の駅たかの」の方の話聞き、どんな思いをもってりんごを販売されているか知ること、今後のりんご栽培や販売、生活につなげていくことができるようにする。</p>

	<p>◎ 高野りんごにこめられた人々の思いを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも守っていききたい。 ・苦労もあるけれど、みんなで大切に守っていききたい。 ・りんごは高野の自慢だ。 ・多くの人に高野のよさを知ってもらいたい。 ・りんごを通して、高野をよりよくしていききたい。 <p>【補】おじいちゃんの時代から、みんなの時代、そして十年後や二十年後になったとき、りんごの木につままっている思いつてどんなものになっていくのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高野がこれからも発展して行ってほしい。 ・大切に守ってきたものだから、これからも私達が大切に受け継いでいききたい。 ・もっともっと高野のよさを広げていききたい。 <p>【補】みんなが育てているりんごにはどんな思いがつままっているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑い中、頑張って作業したな。 ・お客さんにおいしいと言ってもらいたいな。 ・高野りんごをもっと多くの人に知ってほしいな。 	<p>◇ ワークシートを活用し、自分の考えを明らかにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先人の努力のおかげで今があることや、自分もその一端を担っていることに気付いている。 (発言・ワークシート) ◇ ペアトークの場を設定し、お互いに考えや理由を伝え合う。 <p style="text-align: right;">子供同士の対話</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【視点を変える】 昔から、今、未来へと思考を広げることで、高野の発展について考えさせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【多面的・多角的に考えさせる】 自分達も同じような思いをもってりんごの栽培活動をしていることに気付かせる。</p> </div>
<p>3 りんごを守ってきた先人達がいる高野について考える。</p>	<p>○ このような先人達がいる高野のことをどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦労しながらもあきらめずに受け継いできた人たちがいることを誇りに思う。 ・高野のよさや高野のりんごについてもっと知り食べたりしてほしい。 ・地域のために考え行動している人がいて、発展してきていることがうれしい。 	<p>◇ 児童から出た「子供語」を使ってまとめる。</p> <p>◇ アンケートにも返り、りんご栽培だけでなく、先人達の様々な努力によって高野が発展してきたことにも気付かせる。</p> <p>◇ 児童自身が、今何ができるか、将来どのように高野と関わっていくかを考えるきっかけにする。</p>
<p>振り返り</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ ゲストティーチャーの感想を聞く。</p>	<p>○ 今日の学習を通して、販売の時にどんな思いをこめてりんごを販売したいか書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先人達が苦労を乗り越えて、ここまで残してくれたことに感謝して売りたい。 ・高野町のよさをもっと多くの人に知ってほしい。 ・昔から引き継がれてきたものだから、自分達も思いを引き継いで販売したい。 	<p>◇ ワークシートを活用し、本時の道徳的価値について新たに発見したことなど自分の考えをまとめさせる。</p> <p style="text-align: right;">自己との対話</p>

11 板書計画



これから

- ・高野の自慢をもっとみんなに知ってもらいたい。
- ・大切に引き継いでいきたい。
- ・これからの高野をよりよくしていくのは自分達の役目だ。

高野りんごにこめられた人々の思いを考えよう。

- ・これからも守っていききたい。
- ・苦労もあるけれど、みんなで大切に守っていききたい。
- ・りんごは高野の自慢だ。
- ・多くの人に高野のよさを知ってもらいたい。
- ・りんごを通して、高野をよりよくしていきたいという思いがたまっている。

おじいちゃんの話

りんご農家
野球選手

場面絵

活動時写真

活動時写真

りんご栽培活動をしてみて

ふるさとを愛する心

高野りんごとぼく

- ・農家の方は、おいしいりんごを食べてもらうために、暑い中でも頑張っていること。
- ・りんごも大根もどちらも育てるには苦労がある。
- ・天候に左右されること。

12 ワークシート

○ 今日
学習
学んだこと
や考えたこと
を書きましよう。

○ 今日
学習
学んだこと
や考えたこと
を書きましよう。

○ 今日
学習
学んだこと
や考えたこと
を書きましよう。

高野りんごとぼく

名前 () ()

高野りんごにこめられた人々の思いを考えよう。

13 教材分析

	子供の思考の流れ	主	対
導入 課題設定がある場合も (学習の構えを持つ)	・りんごの栽培活動は楽しいだけでなく、大変なことも多かったな。	○	
教材を知る (登場人物の状況と心情の確認)	・「ぼく」はどんなことを考えたのだろう。	○	
問題場面の確認：課題意識を持つ (課題の焦点化) ◎ 高野りんごにこめられた人々の思いを考えよう。 [投]		○	
個としての考えをもつ (登場人物への自我関与) ※ワークシートへの記入	・これからも守っていききたい。 ・苦労もあるけれど、みんなで大切に守っていききたい。 ・りんごは高野の自慢だ。	●	
他者の考えとの出会い (自分の考えとの共通点と相違点) ※意見の交流	・多くの人に高野のよさを知ってもらいたい。 ・りんごを通して、高野をよりよくしていききたいという思いが詰まっている。		●
よりよい生き方に向けた議論 (多面的・多角的視点の獲得) 【補】おじいちゃんの時代から、十年後や二十年後になったとき、このりんごにつままっている思いってどんなものになっていくのだろう。 【補】みんなが育てているりんごにはどんな思いが詰まっているのだろう。	・高野がこれからも発展して行ってほしい。 ・大切に守ってきたものだから、これからも私達が大切に受け継いでいききたい。 ・もっともっと高野の良さを広げていききたい。 ・暑い中、頑張って作業したな。 ・お客さんにおいしいと言ってもらいたいな。 ・高野りんごをもっと多くの人に知ってほしいな。		●
学級としてのゴール (課題の解決) ○ このような先人達がいる高野のことをどう思いますか。 [投]	・苦労しながらもあきらめずに受け継いできた人たちがいることを誇りに思う。 ・高野のよさや高野のりんごについてもっと知ったり食べたりしてほしい。 ・地域のために考え行動している人がいて、発展してきていることがうれしい。		●
子供が自分の言葉で価値を再定義する (新たな自己の生き方への思い)	・高野の自慢をもっとみんなに知ってもらいたい。 ・今、目の前にあるりんごは昔から大切に受け継がれてきたものだから、大切に受け継いでいききたい。 ・これからの高野をよりよくしていくのは自分達の役目だ。	●	
終末 (新たな学びをじっくりと受けとめる) ※振り返り	・先人達が苦労を乗り越えて、ここまで残してくれたことに感謝して売りたい。 ・高野町のよさをもっと多くの人に知ってほしい。 ・昔から引き継がれてきたものだから、自分達も思いを引き継いで販売したい。	○	

<発問の立ち位置・4区分> (東京学芸大学 永田繁雄教授)

[共]:「共感的」な発問, [分]:「分析的」な発問, [投]:「投影的」な発問, [批]:「批判的」な発問